ともにみらいにつなぐ　やさしさといこいの西東京

広報
にしとうきょう

広報西東京
11/15
No.642
令和８年（2026年）11月15日号





わたしの人生経験が、
「新しい道」を歩む
誰かの力になる。

地域を守る、対話のスペシャリストたち

一度つまずいた人が、再び社会で生きていく。その再出発に寄り添い、やり直しを陰で支えているのが「保護司」です。特別なことではなく、人と人との対話から生まれる信頼関係こそが再犯を防ぐ最大の力。誰かの人生に向き合い、地域の安全と安心を根底から守り続ける、このまちになくてはならない存在です。

特集
保護司
続きは8面へ

地域で孤立させない、居場所づくり

北多摩北地区保護司会　西東京分区
分区長　村田正明（むらたまさあき）さん

定年退職後に民生委員となり、その後、民生委員だった父や姉、仲間の後押しを受けて保護司の道を歩み始めました。

活動を通して感じるのは、犯罪や非行の背景にある家庭環境の課題です。挨拶（あいさつ）や靴を揃（そろ）えるといった習慣、家族との会話がなく、一人で食事をしていたという声を多く耳にします。「おはよう」「今日どうだった？」という何気ない会話や、大人が話を最後まで聞く時間が、子どもにとって「安心できる居場所」となります。その居場所がないと感じたとき、居心地の良さを外に求め、過ちに手を染めてしまうケースも少なくありません。

面接で大切なのは、助言を与えること以上に、来てくれたことに感謝し、一緒に会話を楽しむことです。半年ほどたつと「確実に話を聞いてくれる」という安心感から、自ら本音を打ち明けてくれます。最後まで思いを吐き出すと心が落ち着き、人とのつながりの温かさを知ることで更生が進んでいきます。

子どもたちは、どの子も一人になりたくない、孤立が怖いと思っています。対象者に寄り添い、地域で孤立させないことで再犯を防ぎ、人生のリスタートを支えるのが保護司の役割です。これは決して特別な誰かの話ではなく、誰もが過ちと背中合わせの時代です。「おはよう」と言い合える地域をつくること、子どもの話に耳を傾けることも立派な地域貢献です。保護司の活動に興味がある方は一度話を聞いてみませんか。皆さんとともに、明るく平和な西東京市をつくっていきたいと考えています。

▶地域共生課 ☎042－420－2807